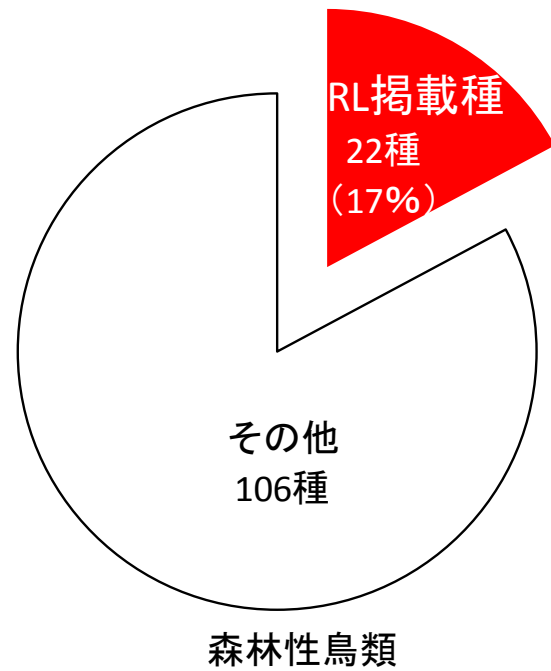


森林の変化に伴う鳥類・哺乳類への影響の事例

<森林伐採等の影響> 森林を主な生息場所とする鳥類 128 種のうち、22 種（17%）は絶滅のおそれのある種である。これらの減少要因として、80%以上の種で森林伐採が挙げられている。

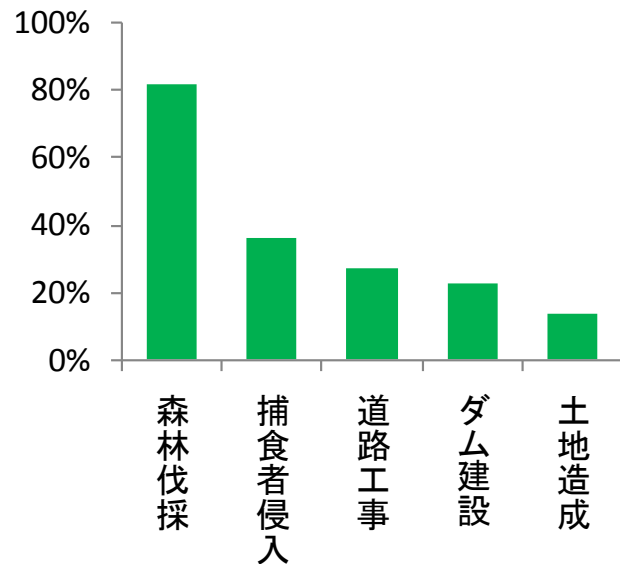
<人工林増加の影響> 1950 年代から 1970 年代にかけて、人工林が急激に増加し、地表近くの食物量の増加を通してノネズミ類・ノウサギの一時的な増加を招いた。その後生じたニホンジカの増加は、捕食者の不在、温暖化による生息地の増加等によるとされる。結果として、農林業被害、生態系への深刻な影響を引き起こしている。

森林性鳥類の中で絶滅のおそれのある種の割合



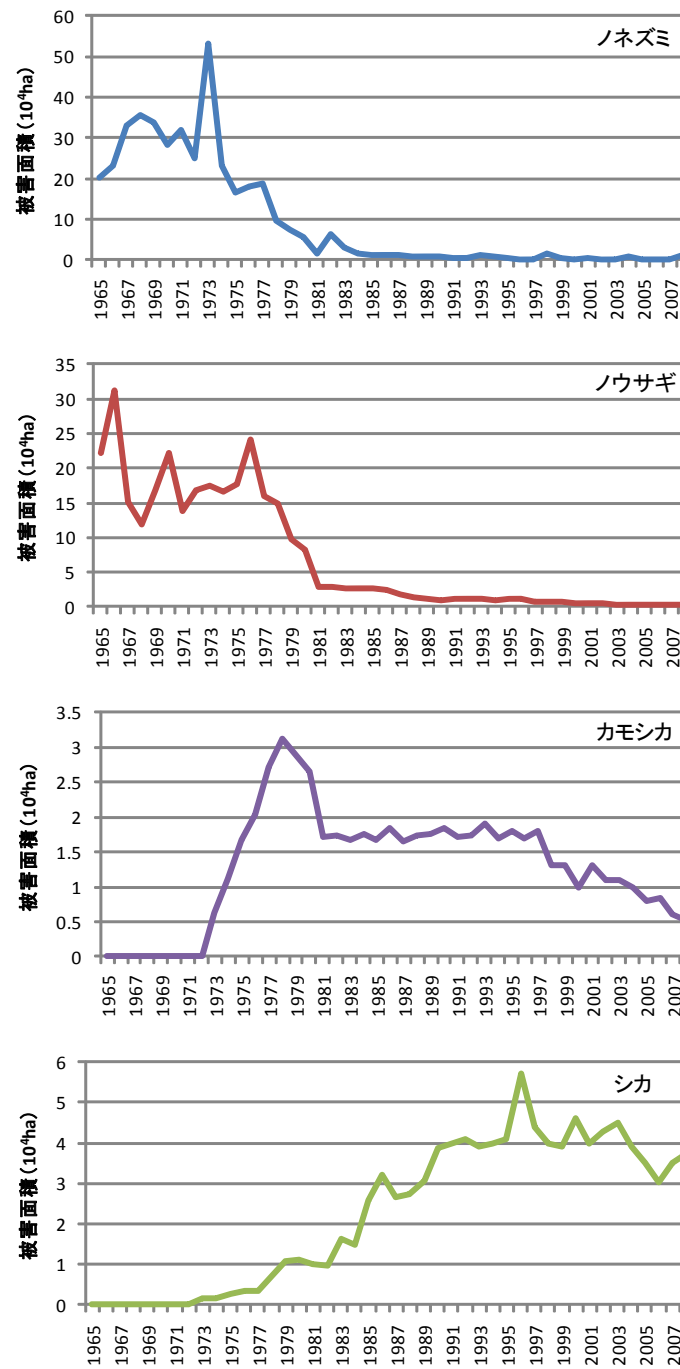
森林性鳥類の種数は東條(2007)の「タイプa：森林を主な生息場所とする鳥類」を採用。
 出典：東條一史(2007)日本産森林依存性鳥類種数の推定. 森林総合研究所研究報告 402; 9-26.
 絶滅のおそれのある種(レッドリスト掲載種・VU以上のもの)の数は環境省報道発表資料より。
<http://www.env.go.jp/press/press.php?serial=7849>

絶滅のおそれのある森林性鳥類の減少要因



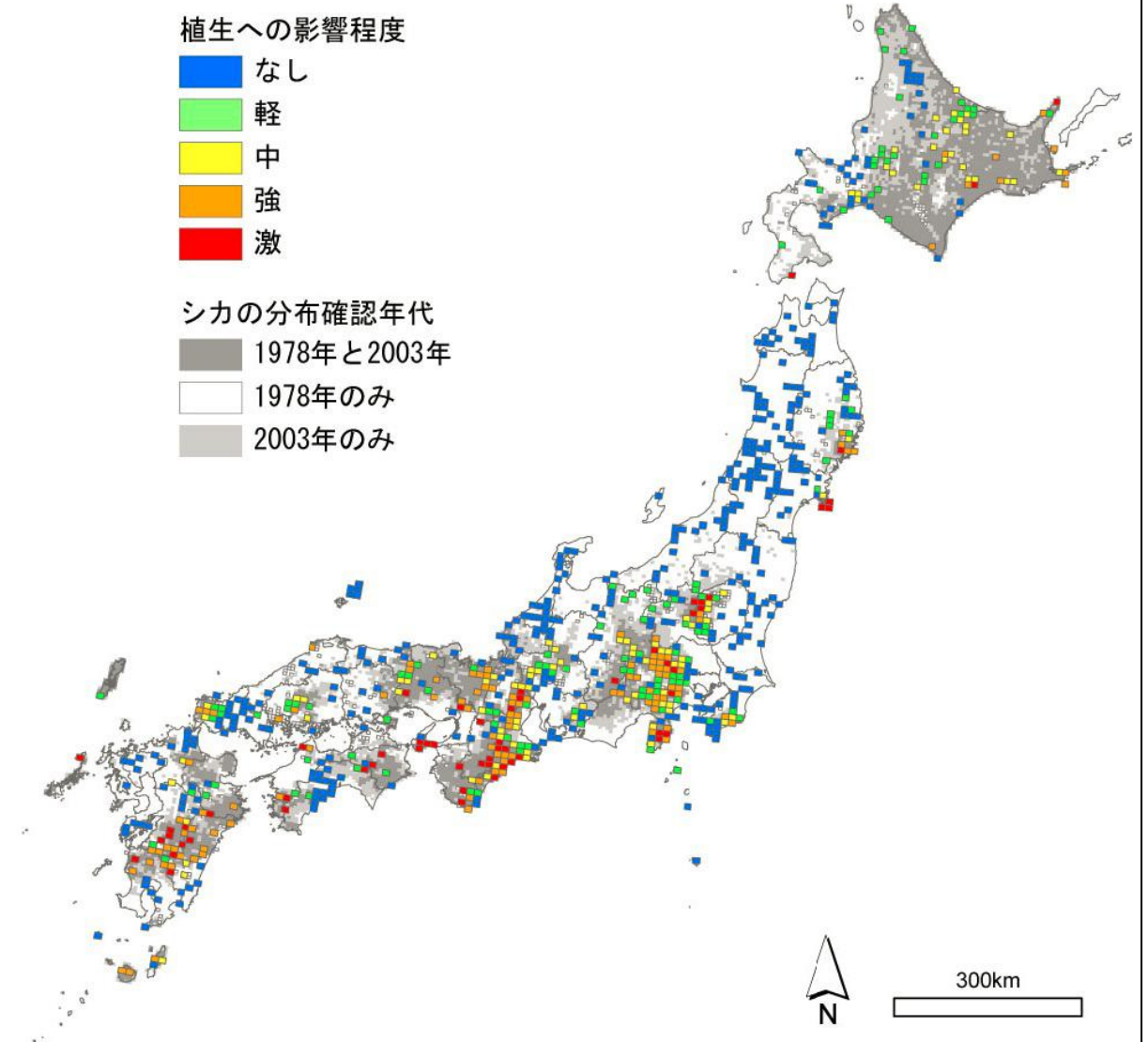
出典：環境省編，2002：改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物—レッドデータブック—2. 鳥類. 自然環境研究センター. 東京, 278p.

哺乳類による林業被害面積の推移



出典：1985～1992 データ 鈴木和夫編，2004：森林保護学. 朝倉書店. 299pp. 東京.
 1993～2008 データ 平成 21 年度林業白書

シカ影響度マップ (2009-2010)



影響程度は 10km 四方の範囲での植生全般への影響を示す。

- ・軽：注意すれば食痕などの影響や被害が認められる
- ・中：食痕などの影響が目につく
- ・強：影響により草本・低木が著しく減少
- ・激：群落構造の崩壊や土壌流亡など，自然の基盤が失われつつある。

シカの分布確認年代は，環境省の自然環境保全基礎調査による。

出典：植生学会ニホンジカによる日本の植生への影響（概要版）

http://www.tuat.ac.jp/~shokusei/sika_report.pdf

なお、データは下記に掲載されたものである。

植生学会企画委員会(2011)ニホンジカによる日本の植生への影響-シカ影響アンケート調査(2009~2010)結果-. 植生情報第15号, 9-96pp.